

令和7年度 中学生の「税についての作文」
緑納税貯蓄組合連合会 優秀賞

地球市民としての責任

桐蔭学園中等教育学校 第三学年 燕谷 えみり



今年も暑い夏がやって来ました。外に出ればたちまち汗をかき、時折頭痛にも見舞われます。ひとときの涼を得るためにアイスを買おうにも、ここ数年の物価高に消費税まで加わって、イライラすることもしばしばです。そこで私はふと、「そもそも暑さの原因である地球温暖化は何とかならないのか」と気になりネットを立ち上げました。そこで「地球温暖化に関する税金がある」という内容ががぜん気になりました。

調べを進めて私が知ったのは、気候変動や資源の枯渇に対処する取り組みを促す「環境税」の一種、「炭素税」や「森林環境税」の存在です。炭素税とは、日本では石油石炭税がこれに相当します。石油や石油製品、LNGや石炭に課税されるものです。この税は、石油や石炭などの輸入時に課税され、のちに個人や企業が自動車燃料の購入時や航空運賃、ガス料金や電気料金の価格に転嫁される形で負担するシステムです。(他にも電気料金には、「再エネ賦課金」も含まれます。)(日本の他フィンランドやノルウェー、英国などの欧州諸国で導入されています。また、森林環境税とは、住民税の均等割に加わる形で徴収される国税です。主に森林の整備や促進に使われており、森林と水源の保全にも役立っています。私は、今まで「いつの間にか取られるもの」と捉えていた税金に、環境問題を解決さ

せようとする役目もあることに驚きました。

私にとっての気候変動は、世界的な大問題である一方、どこか他人事でした。ニュースで連日話題になっているけれど自分では何とも出来ない、そんな存在です。しかし、税金のアプローチでそれらの解決を目指している一面を知りました。課税の根拠や納税の方法など具体的なことは昔と違っていても、その根本は変わらなかったということが腹に落ちました。きっかけは2つの税ですが、税が担う役割を改めて理解することができました。

気候変動は、私たち人類が起こした災いです。私たちは地球上に存在しているにもかかわらず、自らの存在基盤を傷つけています。しかし、私たちが過ちを犯す一方で、それを正すことも出来ると思います。今回、私たちひとりひとりが納税の義務を全うすることで協力できる気候変動対策を知りました。炭素税や森林環境税が他の国でも導入されれば、良い結果が広がっていくでしょう。その積み重ねで、ツバルなどの島国が水没するのを食い止められたり、熱中症警戒アラートが出される頻度も少なくなるでしょう。

「税制には、私たちが日本国民のみならず地球市民として、地球環境への責任を果たすことができる仕組みも存在している」と連日の猛暑の中、私は思い至りました。

